

5.5 水管橋の被害状況

調査対象市町内での水管橋（橋梁添架管）の被害は、表 5.7に示すように20件の被害が報告されている。

図 5.13に被害形態別内訳、図 5.13に橋台部の被害件数を示す。

被害の内訳は、管体の破損が45％，付属施設が25％，継手抜けが15％であった。なお、被害のうち8件が、橋台と埋設管部の取合部での被害であり、小口径管に被害が集中している。

主な被害状況を写真5.13から5.14に示す。

表 5.7 水管橋の被害クロス集計表

		被害状況					管種		口径							計
		継手抜け	継手漏水	管体破損	付属施設	不明	SP	SUS	Φ50	Φ75	Φ80	Φ100	Φ150	Φ200	Φ400	
被害形態	継手抜け	3					3		2			1				
	継手漏水		1				1					1				
	管体破損			(7) 9			(7) 9		(2) 2		(2) 2	(3) 3	1	1		
	付属施設				5		4	1				2	1	1	1	
	不明					(1) 2		(1) 1				(1) 1	1			
管種	SP						(7) 18		(2) 4		(2) 2	(3) 5	4	2	1	
	SUS							(1) 2				(1) 1	1			
口径	Φ50								(2) 4							
	Φ75															
	Φ80									(2) 2						
	Φ100										(4) 6					
	Φ150											5				
	Φ200												2			
	Φ400															1
計																(8) 20

- (注) 1. 上段()書きは、橋台と埋設部の取合部における被害であり内数である。
 2. SP（鋼管）被害における継手抜けはネジ継手の被害であり、管体破損は腐食による被害である。
 3. 付属施設の被害は、空気弁、伸縮継手等における被害である。